

第 3521 図

いばら科



うすがさねおおしま

Prunus donarium Sieb.
var. *spontanea* Makino
subvar. *speciosa* Makino
f. *semiplena* Makino

伊豆七島方面に自生するオオシマザクラの一品種である。落葉喬木で枝は比較的太く平滑である。葉は大きく、倒卵状楕円形で先は尾状にとがり、縁には刺状に尖った重鋸歯があり、全く無毛である。3-4月、緑色の新葉と共に開花し、花梗は淡緑色で無毛、花は大きく径3-4cmで白色、時にわずかに淡紅をおび、花弁は少し重って半八重となっている。この外オオシマザクラには二三の品種が知られている。ヤマザクラ系統の品種よりは各部が大きく、葉の鋸歯が芒状に長く尖り葉下面は白っぽくならず、新葉は緑色、花は大きい。

第 3522 図

いばら科



けやまざくら

Prunus donarium Sieb.
var. *spontanea* Makino
subvar. *pubescens* Makino

山地に自生する落葉喬木で、ヤマザクラの有毛変種と考えられる。葉は楕円形で先は鋭く尖り、縁に尖った重鋸歯があり、両面に毛を散生し、葉柄にも立った毛がある。4月頃、新葉と共に開花し、繖房花序は花軸がのび花梗と共に立った毛が散生している。ヤマザクラにはこの様な有毛品の他に色々な変り物がある。新芽の色も赤褐色、茶褐色、緑色、黄緑色などあり、花に香気の強いもの、花弁が6-30枚になったもの等があり、花の大きさ、色・花弁の形にも変化が多い。

第 3523 図

いばら科



ちしまざくら

Prunus nipponica Matsum.
var. *kurilensis* Wilson
(= *P. kurilensis* Miyabe)

北海道や本州北中部の亜高山帯に産する落葉小喬木で、時に盆栽として栽植される。ミネザクラの変種で、葉柄・花梗・萼に立った毛が多い。葉は倒卵形で欠刻状の重鋸歯があり、両面に毛がある。新葉と共に1-3箇の花を繖状に開く。花は径2cm許、淡紅色又は白色で少し芳香がある。この桜は古くから南千島エトロフ島に産することが知られ、千島桜の名がつけられた。又ミネザクラには葉柄や花梗に毛が散生するが萼は無毛な形もあって、ケタカネザクラと呼ばれる。

せいようばくちのき

Prunus Laurocerasus L.

ヨーロッパ南東部及びアジア南西部原産の常緑樹で時に栽植されている。若枝は淡緑色で平滑。葉は互生し短い葉柄があり、長楕円形で先は短く尖り、縁に疎に低い鋸歯があり、長さ8-15cm巾3-6cm、革質で上面に光沢がある。バクチノキと異なり、4月、前年の枝の上部葉腋に長さ10cm内外の繖状花序を出し、多くの小白花を密につける。花は径1cm余、萼筒は広鐘形で長さ約3mm無毛、裂片はきわめて短く円い。花弁は平開し卵円形で約4mm。雄蕊は約20本、長短不同で長さ3-6mmあり放射状に平開する。核果は長さ12mm許、熟すと紫黒色になる。和名は西洋産のバクチノキの意味である。

からふといばら

Rosa Marretii Lév.

樺太、北海道、及び信濃の山地に産する小灌木。枝は無毛、紫褐色を呈し、刺は葉柄基部の左右に1対ずつあり、葉を互生する。小葉は5-9個、長楕円形で長さ2-3cm、円頭又は鈍頭で、縁辺に細鋸歯があり、下面は少々灰白色で中肋上に伏毛がある。初夏枝端に淡紅色の1-3花を開き、径2-3cm許、小梗は纖長で無毛、萼の筒部は球形、裂片は5個、線状披針形で、先端長く尾状に伸長して長さ2cm許あり、内面及び縁辺に白色短毛を密生する。果実は広倒卵形、径1cm内外、赤熟する。

まいかい(玫瑰)

Rosa odorata Sw.
var. *Thea* Makino

支那原産の落葉灌木で、花を乾したものは玫瑰花と呼ばれ、古くから紅茶に香をつけるので知られているが、確実に日本へ渡来したのは近年である。勢のよい枝には直立した刺が多いが、花の咲く枝では葉柄の基に1対の刺があるだけである。複葉は5-9小葉からなり、小葉は長楕円形でやや短く尖り、長さ1.5-4cm、下面は若枝花梗と共に軟毛がある。萼筒は球形で平滑、萼片は先が長く尾状にのび、内面に白軟毛が密生している。玫瑰は以前ハマナスに当てられたが別物で、刺が少く、小葉はすこし小さく長味があってやや尖り、質は薄く皺が少く、花もすこし小さい。

第 3524 図

いばら科



第 3525 図

いばら科



第 3526 図

いばら科

